

II部 事例集

1 事例の選定方法

事例集の作成にあたり各都道都道府県、政令市及び特別区に推薦を依頼し、そこから推薦された事例について、5点を満点とする採点方法により検討会委員及び事務局で採点し、得点の高かった事例を事例集として掲載した。

採点にあたっては、①今後、推進していく事例であるか、②発展しうる事業であるか、③住民参加型の事業であるか、④事業を企画、実施する上で、工夫した点があるか、⑤事業を実施したことによる効果（期待される効果を含む）に留意している。

対象となる事例は、平成15年度に実施した事業（実施中も含む）とし、次の13分野に区分して事例集を作成した。

なお、事例の推薦がなかった地方自治体もあったことから、若干の偏りがあるものとなった。

【13分野】

- (1) 健康増進計画に関する事例（計画策定、計画の推進、進行管理、評価など）
- (2) 住民の主体的活動、推進に関する事例
- (3) 「健康づくり」の環境整備に関する事例
- (4) 既存の事業を見直して効果的な事業を立ち上げた事例
- (5) 保健計画等に基づいて事業化した事例
- (6) 地域保健推進事業等から、一般財源へ予算を切り替えた事例
- (7) 疫学診断・地区診断に基づいて事業化した事例
- (8) 保健所と連携して推進した事例
- (9) 職域保健と連携した健康づくり事例
- (10) 学校保健と連携した健康づくり事例
- (11) 大学等と連携して推進した事例
- (12) 市町村合併予定、合併後を機に事業の展開ができた事例
- (13) その他

2 事例の講評

3 事例集（例示）

（1）健康増進計画に関する事例（計画策定、計画の推進、進行管理、評価など）

- | | |
|--------------------|---------|
| ① 大畑町壮年男性平均寿命アップ事業 | 青森県大畑町 |
| ② 地場産野菜健康食推進事業 | 神奈川県秦野市 |
| ③ ヘルスプラン21策定事業 | 富山県立山町 |

事業名	大畑町壮年男性平均寿命アップ事業
自治体名	青森県大畑町
人口	9,605人 (平成15年3月31日現在 住民基本台帳による)
事業の根拠	健康大畑21 大畑町平均寿命アップ計画
事業予算	148千円 (一般財源)
事業目的	<p>大畑町は、心疾患や脳血管疾患等の生活習慣病による壮年層の死亡率が高く、これらは平均寿命に大きな影響を与えている。</p> <p>このことから、平成13年度に「大畑町平均寿命アップ計画」を、平成14年度に「健康大畑21」を策定し、壮年層の死亡率の改善を重点課題に取上げ活動を推進している。このことを踏まえ、壮年男性に焦点を当て、日頃の生活習慣を見直し、地域の仲間とともに“健康づくり”を意識し、具体的に実践できることを目的に壮年男性平均寿命アップ事業を実施するものである。</p>
事業内容	<p>「大畑町平均寿命アップ計画」及び「健康大畑21」をもとに、各地区に出向いて男性のヘルスアップスクールとして実施している。</p> <p>平成14年度から取組を始め、平成15年度は2地区目になる。</p> <p>進め方としては、地区にある各種団体の男性を対象にし、男性の参加が可能となる休日や夜間に開催し、町の健康課題について理解した上で、日常生活の中で仲間と楽しく、又は、個人でも実施していけるような内容について指導助言している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 名称：上野地区壮年熟年男性ヘルスアップスクール 2 対象：上野地区の地域組織（町内会、老人クラブ、消防団、祭りの会、娯楽会）に所属する男性 3 内容：1回目 事業目的の説明栄養に関する講話（食生活の問題：塩分、脂肪、糖分）運動の意義と実技（運動の必要性と室内でできる運動の実技） 2回目 調理実習（食生活改善推進員の協力を得て調理を体験）栄養の要点（栄養士の講話） 3回目 医師による講話（生活習慣病の予防）参加者の思いを語る（自分の健康の目標を語る） 4 参加者の状況：30歳代から70歳代という幅広い年代であるが、同じ地区の仲間同士のため、笑いの絶えない事業となっている。

<p>実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業を展開するにあたり、行政だけではなく、地域、家庭、関係機関・団体との連携の上で総合的に実施している。 ・ 事業実施に先立ち、地区の役員や各団体のリーダーと事前の打合せを開催し、事業趣旨について理解を得るようにしている。 ・ 事業に参加するスタッフの連携と役割分担をその都度確認し、進めている。 ・ 事業の波及効果を図るために、広報等を活用し町民にPRしている。
<p>実施効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度実施した地区では、終了後の懇談会において、参加した壮年男性から「自分自身でテーマを持ち、地域にある団体を活用して仲間づくりに取り組みたい。」という積極的な意見が出された。また、同時に参加した老人クラブの男性からは、「シニアとして、人生の先輩として、依頼があればいつでも応援に駆けつけます。」という声も聞かれていた。 ・ 同地区の婦人からも「自分たちも集まる機会を持とう」という声が聞かれ、実際に今年度動きだしており、大きな波及効果となっている。
<p>今後の課題</p>	<p>町内には16地区あり、順次実施していく予定であるが、先に実施した地区の事業効果が薄れていかないように、終了地区のフォローについても検討している。</p>
<p>備考</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 実施地区平成14年度 湯坂下平成15年度 上野 2 対象上野町内会、上野老人クラブ、上野地区消防団、天女丸（お祭りの会）、上野音楽会 3 スタッフ 医師、健康運動指導士、栄養士、食生活改善推進員、保健協力員、保健福祉課職員
<p>連絡先</p>	<p>青森県下北郡大畑町 健康福祉課 (0175-34-6611：総合福祉センター)</p>

事業名	地場産野菜健康食推進事業
自治体名	神奈川県秦野市
人口	16万7,831人(平成15年3月31日現在 住民基本台帳による)
事業の根拠	秦野市総合計画「心のかよいあう健康なまちづくり」 健康はだの21実施計画
事業予算	その他(参加費及び秦野市食生活改善推進団体事業費) 常勤栄養士の団体支援事業のため、特に経費なし。
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秦野市総合計画「心のかよいあう健康なまちづくり」及び健康はだの21実施計画栄養施策である「地場産物を使った健康的な食事と、食事づくりを楽しむこと」を普及啓発し、計画の推進と進行管理を行う。 ・ 食生活指針「地産地消」の推進を図る。・ 秦野市農業協同組合営農部営農課、及びファーマーズマーケット「じばさんず」、及び秦野市企画部広報公聴室、並びに秦野市食生活改善推進団体との連携事業として実施し、多機関による効果的な健康増進の取組の推進を図る。 ・ 健康はだの21実施計画の策定から関わっている秦野市食生活改善推進団体が実施主体の事業である。その支援事業として、食生活改善推進員養成事業と当事業との連動を意識し、ヘルスプロモーションの視点を強化しながら地域食生活改善活動における活動分野の拡大を図る。
事業内容	<p>1 「広報はだの」への地場産野菜の特集記事掲載によるPRと地産地消運動の周知・秦野市農業協同組合営農部営農課から、今月採れる地場産野菜の原産地・収穫・特徴・作付け方法等について野菜の栄養がもつ効能とともに掲載する。じばさんずにおいてもポスターを掲示し周知を図る。・今月記事を毎月1日号に掲載し参加者を募集する。</p> <p>2 はだの野菜ヘルシー料理講座の開催①実施回数 12回(予定)②実施講師)による知って得する地場産野菜情報・栽培のポイント・収穫のヒント・稀少(ブランド)野菜の紹介・野菜の価格情報など・今月の地場産野菜ヘルシーメニュー調理実習・野菜のカレンダー(農協作成)に基づき、主食・主菜・副菜のそろったヘルシーメニュー(500kcal・塩分3.0g)の調理実習</p>
実施体制	秦野市食生活改善推進団体 秦野市(市民健康課・農産課・広報公聴室) 秦野市農協(営農課)・じばさんず・市民

実施効果	<p>1 対象への効果①市民が考える「主体的な地産地消の意識」の啓発・自分で育てた野菜を使って健康食を実践していく意識・朝取りの種類も豊富な新鮮野菜を、安く安心して使うことができることを実践（じばさんずには、550軒の農家から出荷された豊富な新鮮野菜がそろう）・秦野市環境保全型農業（減農薬栽培等）への理解と身近な野菜直売所を利用する契機・食の安全・生産者の顔が見える安心感を実感し、今後も自分からそれらを得ようと行動する意欲②食事からの健康づくりを継続することを育成・体験学習を通じて、より具体化した食生活改善意識と実践・市民対話が「自分にもできそう・やってみよう」という自己効力感へ③発展性・もっともっと野菜を取り入れたメニューを自分で考え、自分で実践していく意識・食生活改善推進員の生き生きした姿を見て、自分もボランティアを望み自分を発展させていきたい声があがる</p> <p>2 連携機関への効果①秦野市食生活改善推進団体・食生活改善推進員が計画・実施・評価を主体的に取り組む事業の実現・「自分がボランティア活動を行うことで市民の健康につながる」市民参画意識を動かし、直接意見を聞くことで実感につながり、さらに活動意欲へ（自己肯定感）・自分自身も勉強になり、楽しみ、続けて活動していきたい自己発展性へつながっている②秦野市農業協同組合・生産者ボランティア講師チームが講座に協力・農政分野との連携により、郷土色が強かった料理が健康食の意識に変化・この事業を契機に、市民健康課以外の他課との連携事業も増加④市民健康課</p>
今後の課題	<p>1 継続性と対象の拡大・各地区公民館活動への拡大と継続・子どもを対象とし、農業体験と食育を目的とした事業展開・農協主催の栽培講習会との連動</p> <p>2 参加費の検討・参加費 500 円ですべてをまかなっているため、野菜の値段が天候に左右される場合もある。いかに旬の野菜を安く入れてもらうかじばさんずとの調整も重要③ホームページへの掲載と料理集の作成</p>
備考 (工夫)	<p>1 秦野市では、食生活改善推進員養成事業が県から市町村に事務移管されて1年になる。新人が主体的に動く意識を持って活動を継続していくために、新人育成事業としても当事業を実施した。</p> <p>2 食生活改善推進員が計画・実施・評価を主体的に取り組めるよう、支援を行った。</p> <p>3 じばさんずの助言により、生産者ボランティア講師チームが講座に協力。市民対話のできる機会を設定した。</p> <p>4 予算のない中、参加費 500 円という受益者負担を設定し、最小経費で実施</p> <p>5 じばさんず店舗内においても事業をPRできるような体制作りを行った。</p> <p>6 広報公聴室企画「講座の体験レポート」を広報はだのに掲載し、参加者の目線で、講座の楽しさや有用性をPR</p>
連絡先	<p>秦野市 健康福祉部 市民健康課 電話 0463 (82) 5111 (代)</p>

事業名	ヘルスプラン21策定事業
自治体名	富山県立山町
人口	28,513人(平成15年3月31日現在)
事業の根拠	なし
事業予算	790(千円)一般財源
事業目的	健康日本21の地方計画として従来のヘルスプランを見直し、みんなで取り組む健康づくりを推進するため、町民参加による地域にあったプランを策定する。
事業内容	<p>ヘルスプラン21策定事業 策定のための検討委員会を開催し、以下についての検討及び関係者研修を行っている。</p> <p>1 現状の分析 健康づくり意識調査や既存の資料から現状を分析した。 【健康づくり意識調査】 対象 20歳代～60歳代 1000名(回収率 55.1%) 内容 健康状態、生活習慣病、食習慣、運動習慣等</p> <p>2. 健康課題の抽出と検討 上記から町の健康課題抽出し、①栄養・食生活、②身体活動・運動の領域について取組目標(指標)と推進方策(行動目標)を検討した。</p> <p>3. 健康づくり関係課のヒアリング 現状の把握と推進における連携体制の整備を図るため、教育委員会、農林課、建設課、総務課、商工観光課に関連する事業について、ヒアリングを実施した。(スポーツ振興、生涯学習、運動環境・歩道、街頭の整備、食の安全、特産品活用の食生活改善、グリーンツーリズム、ウォーキング大会等)</p> <p>4. 研修会の開催健康日本21・ヘルスプロモーションの理念について、理解を深め、ヘルスプランの策定や、推進に反映させるため、研修会を開催した。 【対象者】 検討委員、健康づくりボランティア</p>

実施体制	ヘルスプラン21策定事業◎検討委員会及び策定委員会を設置し、ヘルスプランの策定にあっている。アドバイザーは中部厚生センター（保健所）に依頼している。
実施効果	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスプランの策定にあたっては、町民参加による方法をとっており、推進にあたってはみんなですすめる健康づくりの実践へつなぐ手がかりとなる。また、スタッフ全員が検討委員会の運営に関わることで、スタッフ間の共通理解や意思統一が図られた。 2. 庁内関係課との連携が強化され、健康づくりの視点を考慮した事業展開が期待される。また、関連するイベントや事業は共同で実施することにより幅広く充実した活動の推進が図られる。 3. 若年層から、健康に関心を持ち、自らの健康状態を確認し食生活や日常生活の改善を図ることで生活習慣病予防ができる。
今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 計画の実現に向けて、広報やケーブルテレビを通して町民への周知を行い、ヘルスプラン21が町民自らの取組として浸透するよう支援する方法の検討。 2. 進行管理は、検討委員会において行う予定であり、具体的には、今後検討していきたい。 3. 年層の健康づくりはヘルスプランの中でも重要課題として位置づけていく予定であり、町民の自覚を促し、自らが主体的に健康づくりに取り組めるよう支援する手法・体制の整備が必要である。
備考	<p>一次予防を強化するため、若年層の健康づくりを重要な課題として位置づけ、従来の婦人の健康づくり事業を、対象者を男性にも広げて、健康診査事業を実施している。予算化にあつては、若年からの健康データを把握し、生活習慣病の早期発見・予防や、生活習慣の改善により、医療費の削減につながることを説明している。</p>
連絡先	<p>富山県立山町保健センター TEL076-463-0618</p>

委員名簿

氏名	所属等
井伊 久美子	兵庫県立看護大学看護学部助教授
今井 照	福島大学行政社会学部教授
右京 信治	千葉県鎌ヶ谷市役所市長公室企画政策課副主幹
黒崎 はつゆ	富山県厚生部健康課がん成人病係長
鈴木 ひろ子	愛知県豊橋市役所福祉保健部健康課健康づくり係長
藤内 修二	(社) 地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センターセンター長
○ 富永 祐民	(財) 愛知県健康づくり振興事業団副理事長
花岡 佐喜子	長野県衛生部保健予防課企画員
町田 茂	東京都羽村市役所福祉部統括課長
山口 道昭	立正大学法学部教授

○印は座長

所属等は、検討会発足当時のもの